

平成28年6月6日(月)

老球の細道241

メンバーチェンジ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

昨年は戦略、戦術なきゲームが多かった中体連支部大会であったが、今年はメンバーチェンジなき試合が多かった。メンバーチェンジはタイムアウトと同様コーチのゲームマネジメントの醍醐味である。そこには多くの戦術的意図や選手育成の視点などが含まれる。

今回の大会を見ると、残念ながらスタメンだけで1ゲーム通したり、交代してもたった1人か2人くらいしか交代しないチームが多かったような気がする。コーチの先生方になぜ交代しないのかをたずねると、ゲームで使えるほど実力がないからだと言う。コーチとしては、交代することによってゲームの流れが変わり、勝てるゲームを落とすリスクを恐れるからだろう。だから相当の点差が開いたり、ケガやファールトラブルでもなければ交代はしない。しかし選手はゲームで育つ。選手をゲームで使わなければ、永遠に実力はつかないし、チーム力も向上しない。

メンバーチェンジをする場面は下記のように多くの状況が考えられる。

- ①ある特定のプレイヤーに指示を与える
- ②疲労で休ませる
- ③けがで入れ替える
- ④活躍している相手プレイヤーに対するディフェンスを改善する
- ⑤うまくできないプレイヤーを交代
- ⑥特別な能力を持っているプレイヤーをピンチヒッターで使う
 - * 相手がプレスで来た時にボールキープに秀でたプレイヤーを使う
- ⑦控えのプレイヤーを育てるため
- ⑧大差のゲームでレギュラーを休ませる(レギュラーは1人か2人休ませる)
 - * 全員交代してしまうとゲームにならず次のゲームに影響を与える場合がある
- ⑨必要に応じてスペシャルチームを編成する
 - * スモールラインアップでディフェンスをかためる等
- ⑩規律のため(やる気のないプレイヤーを外す)
- ⑪交代で出て来た相手チームのプレイヤーと同等の力のプレイヤーをマッチアップする
- ⑫反則退場の危険を回避する
 - * 1Qで2回、前半で3回が目安だろう

これらのメンバーチェンジを利用することはコーチの腕の見せ所である。NBAのゲームを見てもわかるように多くの選手がタイムシェアをしながらチーム力を高めている。コーチは控えの選手たちをゲームに出場させながら実力を向上させ、主力を大事な場面で実力を発揮できるようメンバーチェンジを利用して休ませる。NBAも中学生も原則は同じ。

ゲームは上手な選手だけで疲弊しながらプレイするのではなく、エントリーしている選手全部がゲームを通して育っていく発想が必要である。5人しか使えないチームと10人使えるチームでは、試合数が多くなるにつれ自ずと先は見えてくる。そして最も危惧することは、ゲームで使われる心配のない選手たちが、自チームが負けていてもベンチでは他人事のように明るく爽やかでいることである。